

企業のみなさんと共に大阪の生物多様性の保全に向けて

おおさか生物多様性パートナー協定の紹介とお誘い

大阪府の生物多様性の保全に向けて

私たちの暮らしは、人間を含めたさまざまな生き物のつながり＝「生物多様性」によって支えられています。しかし、私たち人間の活動が引き起こす負の要因などにより生物多様性は危機に瀕しており、この損失を止めることが地球規模での課題となっています。生物多様性の保全は、持続可能な社会の構築のために全世界的に展開されているSDGsの取組の一部でもあります。

大阪府では生物多様性の恩恵を享受している大都市圏での取組みとして、大阪21世紀の新環境総合計画に基づく、「おおさか生物多様性パートナー協定」制度で、企業のみなさんの生物多様性保全の活動を支援しています。



企業や府民の皆さんへ

パートナー協定では、企業のみなさんがCSRや企業戦略に位置づけている生物多様性保全の活動(例えば、敷地内でのピオトップの創出など)を大阪府が関係する専門機関と連携して支援するものです。これまでにパートナー協定を締結している企業のみなさんは、社員への環境教育の場づくり、地域や一般の方への観察会や体験の場などとしての公開利用、絶滅危惧種の保全地としてなど、さまざまな形でこの協定を活用しています。

ぜひ、一緒に生物多様性の保全に取り組みましょう。



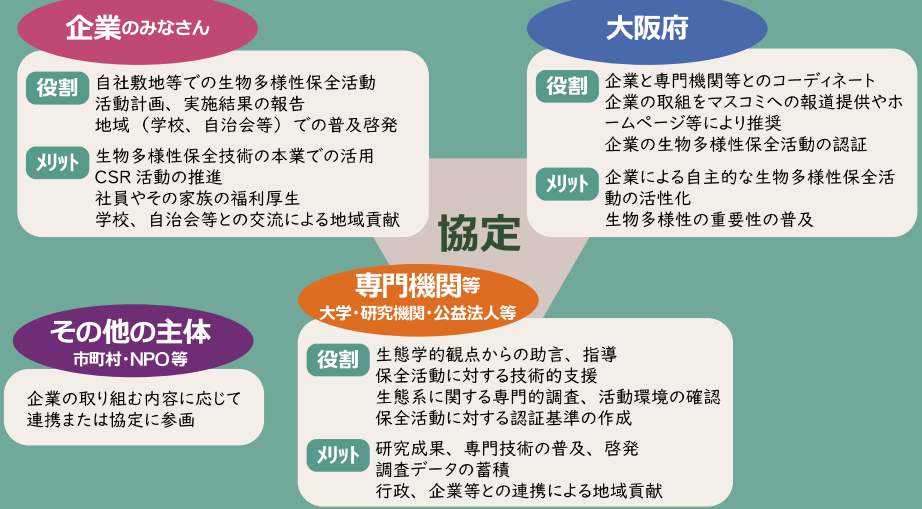
おおさか生物多様性パートナー協定とは

Step 1 活動内容などの協議・調整



目的
生物多様性保全活動に取り組む企業を大阪府及び専門機関等が連携して支援するとともに、府が当該企業のPRや推奨を行うことで、企業の自主的な生物多様性保全活動を促し、企業価値の向上を図ります。

Step 2 協定の締結



連携する専門機関の紹介

- 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター**
豊かな自然環境と全てのいのちが共生する社会を構築し、その多面的機能や恩恵をこれからも享受し続けるために、大阪の生物多様性の把握・評価・保全・普及や、持続可能な利用に向けた調査研究に取り組んでいます。
写真提供: 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所
- 公立大学法人大阪 大阪府立大学 生命環境科学研究科 環境動物昆虫学研究グループ**
環境動物昆虫学研究グループでは、昆虫や小動物の管理や生物多様性保全の基礎とするために、系統と生物地理学、生活史戦略、生息場所の保全生態学などに関わる研究を行っています。
写真提供: 公立大学法人大阪 大阪府立大学 生命環境科学研究科 環境動物昆虫学研究グループ
- 公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会**
みどり豊かで快適な環境づくりに資するため、「みどりの未来をわたしたちの手で」をキャッチフレーズに、府民の参画や協働により大阪府内に残された貴重な湿地や動植物をはぐくむ自然環境を保全するとともに、身近な街の緑化の取組みを推進しています。
写真提供: 公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

お問い合わせ先
大阪府 環境農林水産部 みどり推進室
みどり企画課 都市緑化・自然環境グループ
電話: 06-6210-9557 Fax: 06-6210-9551
住所: 559-8555 大阪市住之江区南港北1丁目14-16
大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー) 22階
E-mail: midorikikaku@sbox.pref.osaka.lg.jp
URL: <http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/tayouseipartner/>
おおさか生物多様性パートナー



表紙の生きものの名前 ※ヨウシュヤマゴボウ以外は在来種です。イラスト: 永田哲生

おおさか生物多様性パートナー協定企業の取組の紹介

“生物多様性センター”は、「地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター」の略称です。生物多様性センターの、協定締結時の名称は「水生生物センター」です。

パナソニック株式会社 ライフソリューションズ社

2013年締結

締結先 大阪府、大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪府立大学

2009年に大阪・門真本社の構内「はんえいの広場」にビオトープを設置し、その後2013年にパートナーシップ協定を第一号として締結しました。

池には、絶滅危惧種の「カワバタモロコ」、「ミズアオイ」、「ミナミメダカ」（いずれも地元北河内地域産）などを生物多様性センターの指導のもと導入しました。

従業員ボランティア参加で管理やイベントを実施し、生物多様性や生態系などに関心をもってもらうように努めています。



ミナミメダカ



写真提供：パナソニック株式会社、ライフソリューションズ社

積水ハウス株式会社

2015年締結

締結先 大阪府、大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪府立大学

「5本の樹」計画に基づき、新梅田シティに日本の原風景「里山」を再現した「新・里山」と四季を感じる多彩な植物で緑化壁を覆う「希望の壁」を整備しています。

新・里山では、在来樹種を中心に植栽され専任社員による循環型管理を実施しており、地元の小学生や幼稚園児への教育の場として、オフィスワーカーの農作業ボランティア活動の場として、地域密着型のコミュニケーションの場として活用されています。

絶滅危惧種の「ミズアオイ」を生物多様性センターの指導のもと導入し育成保全しているほか、同じく絶滅危惧種の「オオコノハズク」「ミゾゴイ」が飛来するなど多様な生き物の生息が確認されています。



ミズアオイ



写真提供：積水ハウス株式会社

パナソニックホームズ株式会社

2014年締結

締結先 大阪府、豊中市、大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪府立大学

地域の生態系ネットワークの保全と大規模災害発生時の事業継続および帰宅困難者支援を考慮して本社敷地内に整備した緑化ゾーン「つながりのひろば」を2013年に開設し、広く一般の方々に向けて開放しています。

つながりのひろばには在来種を中心とした中高木を植樹した「つながりの森」や絶滅危惧種を保護する「水のひろば」などのビオトープを設けています。

水のひろばでは絶滅危惧種の「ミナミメダカ」、「カワバタモロコ」（いずれも地元北摂地域産）などを生物多様性センターの指導のもと導入し、育成保全しています。



カワバタモロコ



写真提供：パナソニックホームズ株式会社

株式会社小松製作所

2016年締結

締結先 大阪府、枚方市、大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪府立大学

「コマツの生物多様性宣言」および「コマツの生物多様性ガイドライン」、地域固有の生態系に配慮した「1拠点1テーマ活動」のもと、枚方市の大坂工場内に「コマツ里山」を造成しています。

コマツ里山は枚方の自然環境の復元再生、長尾丘陵里山景観の再現を目指して整備され、地域のエコロジカルネットワークの構築を目指し生物多様性に配慮した管理を行っています。毎年開催しているフェスティバルでは市民に開放し、スタンプラリーなどを通じて生き物に触れ合う場として活用されています。生息種のモニタリングにより、絶滅危惧種の「ナツアカネ」など多様な生き物が確認されています。



ナツアカネ



写真提供：株式会社小松製作所

南海電気鉄道株式会社

2014年締結

締結先 大阪府、岬町、大阪府立環境農林水産総合研究所

2009年に大阪府と「グリーンパートナー協定」を締結し、その活動の一つとしてこのパートナー協定により、大阪府、岬町などと連携協力を「いきいきパークみさき」内の「多奈川ビオトープ」で保全活動を推進しています。

春には『みさき「いきもの」ふれ愛ハイク』としてビオトープハイキングを開催するとともに、多奈川ビオトープの自然観察会を大阪府や岬町などと連携して年に5回実施し、ビオトープ保全活動を環境学習に役立て、地域に貢献しています。

ビオトープには絶滅危惧種の「トノサマガエル」「コオイムシ」をはじめ、多様な生き物の生息が、観察会を通じて確認されています。



トノサマガエル



写真撮影：大阪府

各社の取組～ここに注目！

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センターより

はんえいの広場(パナソニック株式会社ライフソリューションズ社)、つながりのひろば(パナソニックホームズ株式会社)、新・里山(積水ハウス株式会社)は絶滅危惧種の域外保全の側面で重要な意義があります。はんえいの広場、コマツ里山(株式会社小松製作所)、新・里山では地域の自然環境を復元再生する手法でビオトープが作られ地域の生物多様性保全に直接的に寄与しています。

つながりのひろば、多奈川ビオトープ(南海電気鉄道株式会社)、新・里山、コマツ里山では、常時またはイベントを通じるなどして多くの府民の利用があり、生物多様性保全の意味の発信に寄与しています。

多奈川ビオトープ、つながりのひろば、コマツ里山はそれぞれ自治体や地元との連携がなされ、地域が一体となった広域での生物多様性保全ネットワークの取組として有効です。

はんえいの広場、多奈川ビオトープは、従業員の生物多様性への意識向上活動に活発に活用されており、企業が生物多様性の向上に取り組む意義の共有に役立っているといえます。

生物写真提供：地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所